

研究・研修計画

1 研究主題及び副題

確かな力が育つ学びの創造
～問いをもち、求めて学ぶ姿を目指して～

2 主題（副題）設定の理由

(1) 今日的な教育課題から

子どもたちは学校も含めた社会の中で、様々な人と関わりながら学び、その学びを通して自己有用感や自己存在感などの実感をもつことができる。学校教育全体の中での一人一人の学びの積み重ねは主体的に学びに向かう力となり、学んだことを生かしていきたいという意識につながり、よりよく学びたい、よりよく生きようとする意欲につながるものである。これからの時代に求められる資質・能力は、様々な変化に積極的に向かい合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることである。子どもたちはどの子も本来、潜在的に有能な学び手である。学ぶ意欲をもち続けることは生涯にわたって能動的に学び続けることにつながる。

今日の教育に求められる「個別最適な学び」として「指導の個別化」「学習の個性化」を取り入れ、子どもが自己調整しながら学ぶ力を付けるために指導していかなければならない。また、多様な他者を尊重し、協働的に学ぶ場、協働的に学び合い高め合う力も一体的に充実させていく必要がある。人と人の直接の関わりや体験活動の重要性を再認識するとともに、ICTの活用が個の学びと協働的な学びの往還の中で効果的に行われるようにすることも重要である。子ども自身が問いをもち、思いをもち、適切に課題を設定し、必要感をもって学び合い、個の学びを深めていけるように授業を改善していかなければならない。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校では今年度より「生きる力を身に付け、自らの未来をひらこうとする新山健児の育成～おもしろい子・かながえる子・きたえる子～」を学校教育目標に掲げた。学校教育活動全体で育む資質・能力として「気付き力」「協働する力」「調整する力」を設定し、「はじめに子どもありき」を基本理念とし、「自立」と「自律」を兼ね備え、自らの将来を見つめて努力できる姿を目指し、これまでの教育活動の継続と更なる向上を図っていききたい。

これまで思考力を重視した授業実践を積み重ね、「確かな力を育てる問題解決的な学習過程」を土台とした授業の在り方について研修を重ねてきた。令和元年度からは「学びのつながり」「学びの価値」をキーワードに、自己肯定感を向上させ、自己実現しようとする子どもの育成を目指し、子どもが学びの手応えを感じ、自らの学びを調整して学び続ける姿を求めて研究を進めてきた。子ども自身が問いをもち、求めて学ぶ自立した学び手、さらに自律した学び手となるよう支え育む研究を推進していききたい。

(3) 児童の実態から

第17次研究として学校教育全体で目指す資質・能力の獲得を目指し、学びの自覚を支える手立てを考え、取り組んできた。自ら問いをもち、課題意識・目的意識を明確にし、子ども自身が学びのつながり、学びの価値に気付き、学び続けようとする姿が見られるようになってきた。特に昨年度の取組において、自由度を高め、子どもに委ねるマイプラン学習を単元内に組み入れることで、個々の求めて学ぶ多様な姿が見られた。

一方、諸調査や学習アンケートの結果からは課題が見られた。「知識及び技能」では、教科等の用語の理解と基本的な学習内容の定着、「思考力・判断力・表現力等」では、目的や意図に応じて複数の情報を適切に選択して活用すること、条件に合わせて適切に説明したりする力、「学びに向かう力・人間性等」においては、互いの考えを伝え合い協働的に学ぶよさを実感することや自己調整力を発揮した学びを自覚することなど、更に向上させる必要がある。

子どもが自分事として学びに向かい、確かな学力を獲得できるよう、「問いをもつこと」に焦点を当て、内発的動機を確かにした必要感のある課題設定が一層必要である。更に学んでいく過程での試行錯誤や新たに更新される問いを学びの推進力とする単元・授業構想が重要である。子ども自身が必要感をもって個の学びを充実させていくには、学習の場や時間配分等、自己選択が自然に行われる環境、必要感のある柔軟な学び合いの設定も重要である。子ども自身が学びをどう調整していくかを自覚化し、学びの手応えを得ることで、自己肯定感や自己調整力の向上に結び付けたい。そのための教師の役割、有効な手立てを考え、検証し、授業改善に向かいたい。

3 重点とする資質・能力と目指す子どもの姿

気付く力	自ら問いを見付け、その解決に向けて、身に付けた知識及び技能をつなげたり活用したりして、多様な考え方や学ぶ楽しさ、学びの価値を実感する力
協働する力	考えるすべを使い、互いの考えを伝え合い、自己内対話や他者との対話を通してよりよい考えを形成し、高め合う力
調整する力	身に付けた力をどのように生かすかを考えたり、多様な考え方や方法で試行錯誤・自己選択したりして、見通しをもって自ら学びを進める力

〈児童の発達段階に応じた資質・能力と目指す子どもの姿〉

	低学年	中学年	高学年
気付く力	自ら進んで対象と関わり、問いをもち、解決の過程で自他のよいところに気付き、学びの楽しさを感じている。	自ら進んで対象と関わり、問いを見付け、身に付けた力を活用して解決に向かい、多様な考え方のよさや学ぶ楽しさ、価値を感じている。	自ら進んで対象と関わり、問いを見付け、更新し、様々な身に付けた力を関連付けて活用して解決に向かい、多様な考え方のよさや学ぶ楽しさ、学びの価値を感じている。
協働する力	考えるすべを使い、友達と考えを伝え合い、個々の学びを高め合っている。	考えるすべを使い、互いの考えを伝え合い、対話を通してよりよい考えを求め、個々の学びを高め合っている。	考えるすべを駆使し、互いの考えを伝え合い、対話を重ねてよりよい考えを求め、個々の学びを高め合っている。
調整する力	身に付けた力を使おうと考えたり、他のやり方も試したり、自己選択したりして見通しをもって学ぼうとしている。	身に付けた力を適した場面で活用したり、多様な考え方や方法で試したり自己選択したりして、見通しをもって学ぼうとしている。	身に付けた力を適した場面や方法で活用したり、多様な考え方や方法で試行錯誤したり自己選択したりして、見通しをもってよりよく学ぼうとしている。

4 研究の仮説

子どもの学びの過程を捉え、個の学びと協働的な学びが柔軟に関わり合う単元構想・学習展開を推進し、学びの自覚を支えることによって、自ら問いをもち、求めて学んでいくことができるようになるのではないだろうか。

5 仮説の検証方法

- (1) 研修計画に基づく授業研究会、学年研究推進に基づく日常の授業実践等で、資質・能力を観点とする子どもの実態をP D C Aサイクルによって検証する。

〈カリキュラム・マネジメントに基づき、目指す資質・能力が発達段階に応じて身に付いているか〉

- (2) 全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、総合学力調査等の諸調査により、数値に表れる学力で検証する。

〈各教科等で求められている力が身に付いているか〉

- (3) 諸調査の質問紙や学習に関するアンケートにより、学びに対する情意面や資質・能力に関連した思いを数値で捉え検証する。

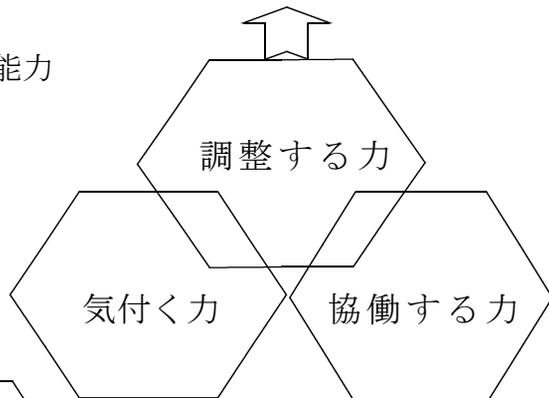
〈学習に対する情意面や資質・能力に関連した学び方は、どのように自覚されているか〉

生きる力を身に付け、自らの未来をひらこうとする新山健児の育成
～おもいやる子・かんがえる子・きたえる子～

確かな力が育つ学びの創造

～問いをもち、求めて学ぶ姿を目指して～

目指す資質・能力



学びの自覚

学びの俯瞰・活用・調整

子どもの学びの
過程の確かな見取り

個の学び

協働的な学び

個の学び

協働的な学び

個の学び

個の学びと協働的な学びを
柔軟に関連付ける働きかけ

学びの自己調整力

あれ？ そうだ！ まてよ？ だったら…
問いをもち、求めて学ぶ 授業

考えるすべ

着目する

比べる

関連付ける

類推する

等

研究の重点

◎学びの自覚(問いをもち、求めて学ぶ)を支える授業

- 1 個の学びと協働的な学びが柔軟に関わり合う単元構想
- 2 子どもの問い、求める学びを支える手立ての工夫

基本的な学び方の定着

カリキュラム・マネジメントを踏まえた
主体的・対話的で深い学び

7 研究の重点と具体的施策

重点 学びの自覚（問いをもち、求めて学ぶ）を支える授業づくりの推進

(1) 個の学びと協働的な学びが柔軟に関わり合う単元構想

- ①子どもと共有、更新していく単元プランの構築
 - 必要感のある適切な学び合いの場づくりと個の学びの保障
→ 見通しをもった学び・自己調整する学び
- ②学びの自由度を高め、子どもが求めて学習を進める場の設定
 - 自己選択・自己決定する機会の設定

(2) 子どもの問い、求める学びを支える手立ての工夫

- ①問いを引き出し、考えるすべ（着目する・比べる・関連付ける・類推する 等）を進んで用いる学習活動の工夫
 - 対象と出会う場、追究過程の場における課題意識・目的意識の明確化
 - ICT・思考ツールの効果的な活用 → 学びの履歴・学び合いの可視化
- ②子どもの学びの過程を見取り、教科等の見方・考え方を働かせた学習活動の工夫
 - 気付きのメモ・ノートタイムの推奨 → 個の学びの変容の自覚
 - 教科の用語を用いて考えを整理・表現 → 教科等の見方・考え方の更新
学習内容の定着
 - 評価場面の設定 → 指導に生かす評価の工夫

8 研究・研修計画にある用語の捉え

(1) 「確かな力」について

学校教育法30条に規定された「確かな学力」と同義である。すなわち「基礎的な知識及び技能」「課題を解決するための思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」である。知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものである。

(2) 「問いをもち、求めて学ぶ」について

学びの対象と関わり、どこかに着目して「あれ？」と思ったり、比べて「おや？」と気付いたりする姿、またその問いが共有されたり、連鎖したりして課題意識、目的意識を明確にもち、学んでいく姿を目指している。課題解決、目的達成のためにどのように学ばばよいのか、子ども自身が学びを最適化していく力を育みたい。各教科等の見方・考え方を働かせた学びや教科等横断的な学び、他者との協働的な学びを通して、試行錯誤を重ね、学んだ力を汎用的に活用・発揮することで、学びのよさや面白さを感じ、それらを価値付け、学び進める中で問いが更新されていくと考える。子どもが自らの学びを調整し、活用し、自ら求めて学び続ける姿を目指したい。一斉学習の中で自由度を高める授業構想や単元内で自由度をもつ単元構想の在り方も追究していきたい。

(3) 「学びの自覚を支える」について

子どもが主体的に問いをもち、課題意識や目的意識をもち続け、学び進めるための教師の役割を考えていく必要がある。子どもが学びの見通しを修正したり、子ども自身が協働的な学びのよさを知り、自他の学びを評価し、課題解決に至った効果的な考え方やすべを明らかにしたり、自らの学びを調整したりする力を付けるための方策を検証していきたい。そのためには、子どもの実際の学びの姿を見取る目を教師が磨くことと個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を踏まえた教師側の働きかけの両方が不可欠である。単元プランの共有や学習環境の整備、ICTの効果的な活用等を重視し、各教科等の見方・考え方を働かせる学習展開を工夫し、個々の学びの質を高めたい。また、学びの自由度を高める試みが子どもの姿にどのように表れるのかを見取り、教師の支援の在り方を考えていきたい。

9 年間研究推進計画

期	期別目標	おもしろい子			かんがえる子			きたえる子		
		道徳教育推進教師・特別活動主任			研究主任・学習指導部			学習指導部・図書主任		
I 期	子どもを育てる。 基本的な行動様式を踏まえ、めあてに向かって挑戦する	環境	○教室環境整備 ・道徳、学級会コーナー ・学級目標	○教室環境計画 ○学習カード	○学習のやくそくの確認 ○家庭学習の手引き					
		授業	○道徳・特活の授業 ○人権教育 ○キャリア教育との連携	○学年部研究計画の共通理解と実践	○学習のやくそく強調週間 ○各教科ノート指導 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○さくらんぼペア(1・2年) ○Q-U調査(5年) ○縦割り活動 ・松ぼっくりデー	○第1回研修会議(研究の方向性確認) ○第2回研修会議(重点と具体的施策) ○総合学力調査(5・6年) ○知能検査(2・5年) ○全国学力・学習状況調査	○図書館利用指導					
II 期	信をもつて行動できる子どもを育てる。 活の視野を広げることに関わりが自分の学習や生活に自然と開く	環境	○教室環境整備 ・道徳、学級会コーナー ・キャリア教育	○学びの足跡・力の種	○学習のやくそくの徹底 ○ノート展示会					
		授業	○道徳・特活の授業 ○キャリア活動との連携	○学年部授業研究 ○学年のカリキュラム・マネジメントの実践	○学習のやくそく強調週間 ○各教科ノート指導 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○縦割り活動 ・松ぼっくりデー	○学習アンケート(全校) ○諸調査分析伝達 ○第3回研修会議 ○研修報告 ○市授業力向上訪問 ◆算数：4の1加藤圭輔教諭 ◆外国語：6の4加藤健斗教諭	○図書館利用指導 ○親子読書 ○読書感想文					
III 期	自己を見つめ直したり、めあてを確かめたりして、ねばり強くやり抜く子どもを育てる。	環境	○教室環境整備 ・道徳、学級会コーナー ・キャリア教育	○学びの足跡・力の種 ○特別教室教材整理	○学習のやくそくの徹底 ○ノート展示会					
		授業	○道徳・特活の授業 ○キャリア活動との連携	○東北理科教育研究協議会 ◆3の1東海林志織教諭 ◆5の2小松知優教諭 ○教科等訪問 ◆国語：1の3竹内純佳教諭 ◆社会：4の4松淵将吾教諭 ◆総合：6年部 ○校内研究会 ◆道徳：2の3鈴木日和理教諭 ○学年のカリキュラム・マネジメントの実践	○学習のやくそく強調週間 ○各教科ノート指導 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○縦割り活動 ・松ぼっくりデー	○県学習状況調査(4・5年) ○総合学力調査(1~4年) ○学習アンケート(全校) ○第4回研修会議	○親子読書 ○読み聞かせ					
IV 期	自分の成長の跡を確かめ、他に感謝するとともに、卒業・進級の喜びとその自覚の下に行動できる子どもを育てる。	環境	○教室環境整備 ・道徳、学級会コーナー ・キャリア教育 ○ありがとう運動の実践	○学びの足跡・力の種 ○学年教材整理	○学習のやくそくの徹底 ○ノート展示会					
		授業	○道徳・特活の授業 ○キャリア教育との連携	○各教科実践のまとめ ○回復指導 ○カリキュラム・マネジメントの総括	○学習のやくそく強調週間 ○学びの足跡の整理と活用 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○道徳シート整理 ○縦割り活動 ・6年生を送る会	○諸調査分析検討会 ○第5回研修会議(研究の総括) ○単元配列表等の見直し	○読書ファイル整理 ○タブレット端末の学習履歴の確認と整理					